歴史文学夜話

鷗外からの180篇を読む

尾崎秀樹

歴史文学夜話

尾崎秀樹

講談社

歴史文学夜話　鷗外からの180篇を読む
一九九〇年七月三十日　第一刷

著　者　尾崎秀樹
装幀者　村山豊夫
発行者　野間佐和子
発行所　株式会社講談社
東京都文京区音羽二十二二十一
電話東京（〇三）九四五一一一一（大代表）
印刷所　凸版印刷株式会社
製本所　株式会社黒岩大光堂
定　価　一九〇〇円（本体一八四五円）
©1990 尾崎秀樹　Printed in Japan
落丁本・乱丁本は小社書籍製作部あてにお送りください。送料小社負担にてお取替えいたします。
なお、この本についてのお問い合わせは文芸図書第二出版部あてにお願いいたします。

ISBN4-06-204878-7　（文2）

目　次

歴史文学夜話　鷗外からの180篇を読む

■第一編

「歴史其儘と歴史離れ」――15
森鷗外の場合――17
歴史意識の断絶――19
「故事新編」のこと――21
「項羽と劉邦」――23
吉川英治と「三国志」――25
それぞれの「演義」――28
「史記」との出会い――30
史伝の復活――32

■第二編

古代史と禁忌――37
「紅蓮の女王」、「天の川の太陽」――39
「落日の王子」と「天翔る白日」――42
古代の夢とロマン――44
黒岩重吾の「聖徳太子」――45
漆胡樽と玉碗――47

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbo

「天平の甍」――50
遣唐使の時代――52
御めの雫――54
■第三編
考古学の世界――59
推理小説と歴史学――61
飛鳥の石造物と火の道――63
「隼別王子の叛乱」――65
「むかし・あけぼの」――67
空海の生涯――70
空海と最澄――72
平凡児道長――75
「美貌の女王」元正――76
■第四編
清盛像の是正――81
「新・平家物語」――83
清盛の妻時子――85

「祇園女御」の世界 88
「親鸞記」から「親鸞」へ 90
「炎環」そして「北条政子」 92
大いなる変革の時代 95
狂雲子一休 97
日野富子の明暗 99
「銀の館」 102
「妖怪」と「室町抄」 104
■第五編
開かれた海・鎖された海 109
キリシタン物の系譜 111
大航海時代 113
はせくらの軌跡 115
「沈黙」と「鉄の首枷」 117
堺の町衆 120
■第六編
中国での評価 125

李徳純の司馬文学観 127
いくつかの如水像 129
「湖笛」の背景 132
若狭路の風霜 134
「流れ公方記」 136
雑賀党の抗戦 138
孫市登場 140
「雑賀六字の城」 143

■第七編

諏訪の風土と伝承 147
「武田信玄」と「武田勝頼」 148
「武将列伝」の魅力 151
「天と地と」の世界 153
「笛吹川」の人間観 155
山岡荘八の〝戦争と平和〟 157
家康の人間革命 160
信長と政宗と 162

秀頼の薩摩落ち——164
真田家の興亡——167
「密謀」の虚実——169
■第八編
ライシャワーの「宮本武蔵」論——175
吉川英治の「宮本武蔵」——177
「佐々木小次郎」の青春——179
いくつかの武蔵像——182
宮本武蔵の出自——183
歴史を仰角で見る——185
女性の立つ位置——187
「樅ノ木は残った」の主意——189
原田甲斐忠臣説——192
大佛次郎の歴史認識——194
「赤穂浪士」の特質——196
元禄事件と文学——199
吉良の側から——200

柳生の活人剣 203
■第九編
松本清張の歴史小説観 209
「かげろう絵図」の世界 211
天保改革を重層的に 213
現代との照応 215
時代科学小説 217
宝暦治水と濃尾三川 220
「孤愁の岸」 222
玉川上水の開発 224
「玉川兄弟」 226
水戸光圀の事績 229
黄門様の虚と実 231
■第十編
日本人にとっての敵討ちとは 237
鍵屋の辻の決闘 238
「日本敵討ち異相」 241

紙碑を建てる 243
村上元三の〝北方物〟 245
「田沼意次」 247
鬼平と梅安と 249
「一茶」の世界 251
■第十一編
漂流の思想 257
大黒屋光太夫の足跡 258
「北天の星」ほか 260
銭五事件の裏 263
「海の百万石」 265
■第十二編
「細香日記」 269
有吉佐和子の世界 271
「和宮様御留」 273
遺体は語る 275
「徳川の夫人たち」 277

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbo

「天璋院篤姫」――279
天璋院と和宮――281
「水々しい小説」――284
「花の生涯」――286
いくつかの忠敬像――289
露伴の少年文学――291
源空寺の墓――293
四千万歩をあるく――295
「夜明け前」の方向――297
聞き書形式の採用――299
「新選組始末記」――301
勝小吉と麟太郎――303
高橋泥舟の処世――305
■第十三編
「人斬り半次郎」について――311
松本良順と「胡蝶の夢」――313
榎本武揚と「行きゆきて峠あり」――315

大村益次郎と「花神」―317
お稲そして荻野吟子―319
「斬」の一字―322
血と血糊のあいだ―324
鶴ケ城落日―326
かりふおるにあ・おけい―328

■第十四編

渋沢栄一とその時代―335
「深重の海」―337
大逆事件の中で―339
「或る『小倉日記』伝」の頃―342
長塚節の生涯―344
晶子と久女―346
尾崎放哉の病者の眼―348
余白に―351

歴史文学夜話

鷗外からの180篇を読む

■第一編

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbo